2024年9月号

FP武蔵野グループ

お彼岸に思うこと

三谷ますみ

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく聞く言葉ですが、今年のお彼岸の威力はすばらしかった。酷暑でげんなりしていた頭とからだが涼しいを通り越して寒く感じたほどで、私はようやく息を吹き返した感じがしました。

さて「彼岸」とは何なのでしょう、「川の向こう岸」を言います。
仏教では、生死の海を渡って到達する悟りの世界を「彼岸（ひがん）」といい、その反対側の迷いや煩悩に満ちた、私たちがいる世界を「此岸（しがん）」といいます。 彼岸は西に、此岸は東にあるとされ、太陽が真東から昇って真西に沈む秋分と春分は、彼岸と此岸がもっとも近づく日なのです。また、地獄の蓋が開くともいわれています。地獄の鬼も折檻を止め、休んでゆっくりするので、此岸でも亡くなった人とのんびり過ごしなさいという意味もあるそうですが諸説あります。

仏教では三途の川の向こう岸をさし、死者の世界のことです。三途の川のこちら岸は命のある者の世界をいいます。三途の川は生者と死者を分ける境を流れる川なのです。
私の父が亡くなった時には三途の川の船の渡し賃として六文銭を持たせました。彼岸はあの世とこの世が一番近づくときといわれ、墓参や仏壇のお手入れをし、故人をしのびます。おはぎや故人の好物を用意したりします。

さて、今年の秋彼岸に我が家では小さなさざ波が立ちました。実家のお墓を継いでいる兄弟からお墓についての相談がありました。お墓が遠いのでお参りは苦痛になり、行けなくなった。自分たちのお墓は住まいの近くに永代供養墓を購入しようかと考えているとのことです。私たち自身のお墓も墓参りの回数は若いころと違って減っている。老化による体力の衰えを感じる年齢になってきてい

ます。

私の両親のお墓も嫁入り先のお墓も公営なので費用は安い。
兄弟が言うように本当に費用に問題がないのか
墓仕舞いはどうしようか？
私の両親も永代供養墓に移すか
私にも兄弟にも子供がいるのですが、それでもお墓の数のほうが子供の数より多いのです。
それはそれで負担になるでしょう。
父母の懐かしい顔が思いだされ、最近、兄弟に会っていないが、いとこの顔も見たい。
一度皆で顔を合わせて相談するのが良いのではと思っています。

以上